

RSウイルスワクチン

定期接種が始まります!

妊娠中のワクチン接種で
赤ちゃんを守ろう!

妊娠中にRSウイルスワクチンを接種すると
ワクチン接種により母体が獲得した免疫を、胎盤を通じて胎児も受け取り、出生後、**新生児及び乳児期**におけるRSウイルス感染症の**重症化予防**が期待できます。

対象者

接種日時時点で川崎市に住民登録をしている、
妊娠28週0日～36週6日の方

接種費

無料(全額公費負担)

接種できる医療機関
など詳しくは市HPA



RSウイルスワクチンQ&A

Q RSウイルス感染症ってどんな病気?

A RSウイルスの感染による**急性の呼吸器感染症**で、**乳幼児に多く**、主に接触感染や飛沫感染(感染者の咳くしゃみの飛沫を浴びる、ウイルスが付着したおもちゃを触る、なめる等)により感染します。多くは軽症で回復しますが、特に生後**6ヶ月以内**に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など**重症化**することがあります。



Q 妊婦がワクチンを接種していいの?

A ワクチンの有効性、安全性は認められていますが、「RSウイルス感染症の定期接種(母子免疫ワクチン)についての説明書」を読み、ワクチンの有効性、副反応等について理解した上で接種をご検討ください。また、接種に当たっては、予め、妊婦健診を担当されている**主治医の先生にご相談**ください。



Q 里帰り出産します。その病院で接種できる?

A 接種を希望する病院が川崎市外の場合、**事前に「予防接種依頼書」の申請**が必要です。また、接種費は一旦、全額自己負担となり、**接種後、償還手続きが可能**となります。なお、接種を希望する病院がRSウイルスワクチンを扱っているか事前に病院に確認をお願いします。



予防接種依頼書、償還
詳しくは市HPA



お問合せ先

川崎市予防接種コールセンター TEL 044-200-0142
FAX 044-200-1065

RS ウイルス感染症の定期接種（母子免疫ワクチン）についての説明書

RS ウイルス感染症とは

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道^{モキド}症状^{シヨウ}が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴^{センメイ}（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎^{サイキョウシヤン}の症状が出るなど重症化することがあります。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。

接種対象となる方

接種時点で、妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方

過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことのある方も対象です。

母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。妊娠中に接種するワクチンであることから、予め妊婦健診の主治医に対し、接種の可否や接種時期について相談してください。

◎ 接種回数、接種スケジュールなど

| | |
|--------------|--|
| 接種回数（接種方法） | 妊娠ごとに1回（筋肉内に接種） |
| 接種スケジュール | 妊娠28週0日から36週6日までの間に1回接種 ※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。 |
| 接種することができない方 | ・明らかな発熱がある方 ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方 ・このワクチン（アブリスボ [®] ）の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方 |
| 接種に注意が必要な方 | ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方 ・予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方 ・けいれんを起こしたことがある方 ・免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 ・組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方 ・妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方 ・筋肉内に接種をするため、血小板減少症 ^{ケツ小板減少症} や凝固障害 ^{キョウコウサハヤウ} を有する方、抗凝固療法 ^{コウコウキョウリョウホフ} を実施されている方 |

ワクチンの効果

| | | |
|-------------|-----------|-----------|
| | 生後90日時点 | 生後180日時点 |
| 下気道感染症の予防 | 6割程度の予防効果 | 5割程度の予防効果 |
| 重症下気道感染症の予防 | 8割程度の予防効果 | 7割程度の予防効果 |

ワクチン接種後の注意

◎ 一般的な注意事項

| | |
|-----------|---|
| 予防接種を受けた後 | <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。 ・入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。 ・接種当日は激しい運動は避けましょう。 ・接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般的に症状は軽く、通常、数日中に消失します。 |
|-----------|---|

◎ 副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります（予防接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることもあります）。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

予防接種を受けた後、以下のような症状が出た場合、その他、分からないことや気になる症状が発生した場合は、医師にワクチンを受けたことを伝えたいと、相談してください。

| | |
|-------|---------------------------------|
| 発現割合 | 主な副反応 |
| 10%以上 | 疼痛*(40.6%)、頭痛(31.0%)、筋肉痛(26.5%) |
| 10%未満 | 紅斑*、腫脹* |
| 頻度不明 | 発疹、蕁麻疹 |

*ワクチンを接種した部位の症状

※ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあることから、接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種によりご本人及び出生した児に健康被害が発生した場合は、法による救済措置があります。本人等が申請を行い、厚生労働大臣が認定した場合に受けることができます。気になる症状が発生した場合は、医療機関又は川崎市予防接種コールセンターにご相談ください。

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、海外の知見で、百日咳ワクチンとの同時接種で百日咳の免疫応答が低下するとの報告がありますので、接種間隔等については医師と相談してください。

川崎市予防接種コールセンター

受付時間 8時30分から17時15分 月～金（祝日、年末年始除く）

電話 044-200-0142（FAX 044-200-0165）